平成27年度

株式会社不動農園

梅甘納豆など「種なし梅」シリーズの商品化



補助事業

今の消費者ニーズは「おやつ感覚で食べる紀州南高梅」
新たな顧客層の獲得と梅需要の掘り起こしを目指して始動

上芳養にある田辺梅林は、一目三十万本といわれ、大規模でそして良質の梅の実が採れる地方として知られる。そんな土地で同農園は、土づくりから見直し栽培から収穫、漬け込み、天日干し、味付けと一貫した作業を行い、丁寧に丹精込めた梅干しを消費者に届けている。

近年、梅干しの低価格品が市場に出回り需要を拡大。高価格帯の売り上げが減少する一方で、原材料費や製造コストが上昇しており、利益率は低下傾向にある。同社も、しそ漬梅やこんぶ梅、キムチ梅など、さまざまな味付けを開発（現在10種類を販売）したが、売上げ拡大・新規開拓に苦戦。さらに消費者の「梅干しは食べないが、梅味のスナック菓子や飴、梅酒などは購入する」という声も多く、新たな商品開発が求められるようになった。また、簡単で便利な「種なし商品」へのニーズが急速に高まっており、既存取引先からの問い合わせも増加。同事業を活用することで、これらのニーズに応えられる梅加工品の開発と、販売の市場拡大を目指した。

テーマは、消費者ニーズでもある「おやつ感覚で食べる紀州南高梅」。そのために、中期計画として「種なし梅」シリーズの開発に着手。ただこれらを商品化するためには課題があった。種なし梅を作るには当然、種抜き作業が必要となる。種抜き機がなければ、全て手作業になり生産量が限られ、かつコストに相当な人件費がかかる。また現在、天日干しの干し梅に取り組んでいるが、天候・気温等で、干し上がりの品質にバラつきがあり、品質・リードタイムの安定を考えると、乾燥機の導入が必要。さらに「おやつ感覚」を前提に、魅力的なデザインと携帯に便利な個袋にすることで、商品力が向上することから、個袋への充填を自動化する必要があると考えた。

成　　果

商品化に向けて試作品を配布
改良を加えて全国で販売開始

課題解決のために、まず機械として導入したのは梅干しの種を取る「種抜き機」と、干し上がりの品質を安定させる「食品乾燥機」、個袋包装を自動で行う「ピロー包装機」の3機種。試作品として、味付けした梅干しの種を機械で抜いた後、食品乾燥機を使って干し梅にし、ピロー包装機で個袋に包装したものを取引先にサンプルとして配布した。手応えを感じつつ、味付けについては本格的な発売に向けて、さらに改良を加えた。今回の導入により、種なし梅シリーズの第一弾として個袋の「種ぬき干し梅」と、容器と個袋にした「種ぬき梅はちみつ漬」を発売。以前より引き合いのあった種抜き梅干しの商談を進めることができ、品質や生産量（リードタイム）も安定した。種なし梅の引き合いも数件ほど動き出し、スーパーや道の駅等での販売を開始している。



今後の展開

産地の維持・発展に向けて
地域に貢献する取り組みを

梅干しが分類される「漬物」ではなく、「菓子」の市場をターゲットに展開する場合、新たな製造許可が必要となる。さらに近年、農家の後継者問題など不安定な原料状況が続いており、現在はメインの梅干し製品の管理や商談に重点を置いている。今後、菓子市場への新たな進出には、原料・人員・スペース等の確保が次なる課題。企業として切磋琢磨しつつも、安定的な産地の維持・発展に向けて、後継者不足や雇用問題にも向き合いながら、地域社会に貢献する取り組みを考えている。



会社紹介

本場・紀州の梅の里で親子3代にわたり農園継承
自然の中で丹精込めて漬け込んだこだわりの逸品



紀州田辺梅林がある上芳養地区で、梅の栽培から収穫・漬け込み・天日干し・味付けまで一貫作業。市街地から山間部に繋がる山深い土地柄で、すべての作業を豊かで清らかな自然の中で行い、丹精込めたこだわりの逸品を全国に届けています。商品は一般向けの通信販売のほか、各地の小売店やカタログ販売、生協、ECなどで販売。紀州名産である梅の魅力を全国に発信し、消費拡大に繋げるべく、新商品開発と提案にも力を入れています。

株式会社不動農園

代表者：代表取締役　不動正巳
設　立：昭和63年（昭和58年創業）
資本金：500万円
従業員：16名
業　種：紀州梅干しの栽培、加工、販売

所在地：田辺市上芳養2954
ＴＥＬ：0739-37-0458
ＦＡＸ：0739-37-0230
E-MAIL：info@fudonoume.co.jp
ＵＲＬ：https://www.fudonoume.co.jp